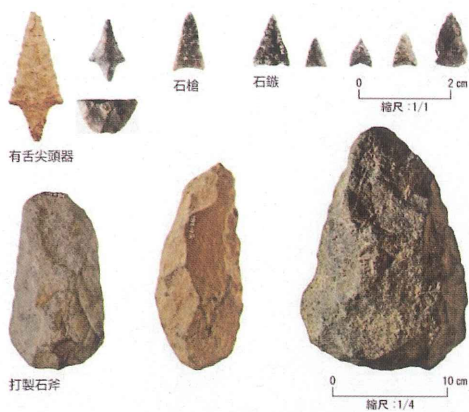
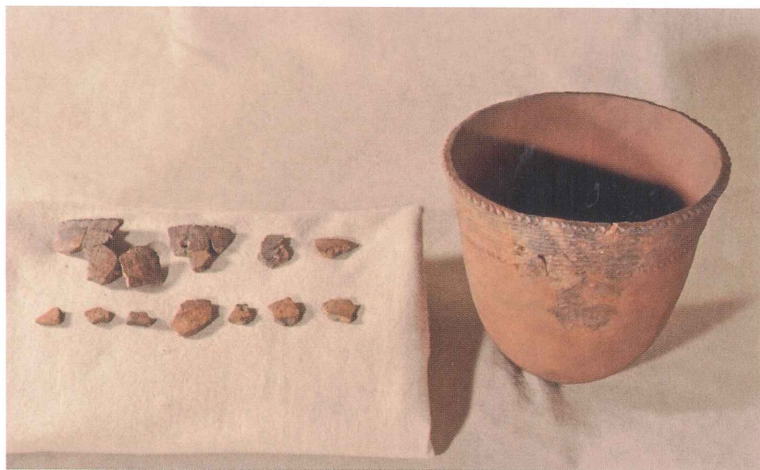


向ノ原遺跡B地点出土縄文時代草創期遺物



〔指定年月日〕平成五年一月一日
 〔種別〕有形文化財(考古資料)
 〔名称〕向ノ原遺跡B地点出土
 縄文時代草創期遺物
 〔点数〕二四点
 〔所有者等〕杉並区教育委員会
 〔所在地等〕大宮一―二〇―八(郷土博物館内)

向ノ原遺跡B地点出土縄文時代草創期遺物

本遺物は、昭和六二、昭和六三年（一九八七、八）に発掘された久我山二一六―一四（現東京都太田記念館）一帯から出土した縄文時代草創期の隆起線文土器・爪形文系土器・有舌尖頭器・石鏃・打製石斧などの遺物である。

「隆起線文系土器」 口唇部は指先あるいは丸い棒状工具によって波状の押し付けが施されている。口唇部直下の隆起線は八段または九段の細い粘土の帯を貼りつけた後、断面を三角形につまみあげ隆起線文間を篋状工具で整形したものである。最下段に「ハの字」状文様を表出した最終段階に属する「細隆起線文系土器」である。

「爪形文系土器」 口唇部上に爪または爪形状の工具によって垂直に「ハの字」状の爪形文を施したものである。この表出法は隆起線文系土器の最終段階に施文される「ハの字」状の系譜を引くものと理解できる。

「有舌尖頭器」 弓の使用開始を示唆する縄文時代草創期文化を代表する石器で「花見山」タイプと呼ばれ、石材は安山岩である。

「石鏃」 二等辺三角形をした石鏃で、石材はチャートである。

「打製石斧」 母岩から剥片を剥ぎ取った時の一次剥離面を片側に残し、もう一面と周辺を加工したもので、石材はホルンフェルスである。

本資料は、本区における縄文時代文化の出発点あるいは定着期を示唆する資料であり、特に爪形文系土器は周辺地域での出土例を見ない貴重な資料である。

【文化財所在地】

